画論 2018 参加報告

札幌医科大学附属病院　放射線部　小倉圭史

2018 年 12 月 16 日(日)、東京国際フォーラムにて行われた「画論 26th The Best Image(写真 1)」に参加したので報告いたします。

画論は言わずと知れた画像コンテストです。東芝メディカル時代から続いている伝統的で、非常に臨床的価値の高いコンテストだと認識しております。

画論は事前の予選審査があり、これを通過すると画論本選プレゼンに参加することができます。この度、自身初となる画論本選プレゼンの機会を得ました。

分ごとに審査されるのですが、「CT」、「MRI」、「超音波」部門に分かれ、さらに「CT」では「1-160 列部門」、「Aquilion One 部門」、「1-160 列部門(心血管)」、「Aquilion One 部門(心血管)」と別れます。著者は「1-160 列部門」にて本選プレゼンを行いました。

写真 1

当日のプログラムは、本選プレゼン、特別講演、表彰式、懇親会の順に行われます。CT/MRI の特別講演は「AI とモダリティの融合による新たな進化」、超音波では「時代を先駆ける！超音波画像の新たな進化」が講演され、いずれも最新画像再構成についての内容であった。本選プレゼンは「CT」、「MRI」、「超音波」部門を別会場にて同時に行うため、他モダリティの審査プレゼンを拝聴することはできなかった。唯一の残念でした。

本選審査は 1-2 名（診療放射線技師もしくは医師など）にて、症例の特徴、臨床的有用性について持ち時間 6 分間のプレゼンを行い、最優秀賞、テクニカル賞、優秀賞が選出される。

予選審査を通過した施設のプレゼンは、いずれも独創性が高く、臨床的有用性の高さが伝わるプレゼン能力が非常に高いものばかりであった。

著者もプレゼンを行ったが、壇上に立つと緊張が最高潮に達し、伝えたいことの半分も伝えられず後悔している。やはり人に伝えるため、理解してもらうためにはしっかりとした事前準備、十分すぎるくらいのプレゼン練習が重要だ。

本選審査には、北海道から華岡青洲記念心臓血管クリニックの近藤優一様、谷越哲也様がそれぞれのテーマで参加されていた。近藤様はたこつぼ心筋症に対する CT での one stop shop の確立、谷越様はペースメーカー埋め込み後患者の狭心症疑いに対してガントリーチルト&SEMAR の合わせ技によって金属アーチファクトを除外し得た症例、とやはりともに驚くほどに素晴らしい内容でした。

さて、結果である。すでに知っている方が多いと思いますが紹介します。

表彰式もかなり盛大な感じで行われました(写真 2)。

写真 2. 表彰式の様子

近藤優一様は「Aquilion　One 部門(心血管)部門」で最優秀賞(写真 3)

谷越哲也様は「Aquilion　One 部門(心血管)部門」でテクニカル賞(写真 4)

著者は「1-160 列部門」でテクニカル賞(写真 5)をゲットすることができました。

運もあり、北海道から本選審査に参加した 3 演題はいずれもなんらかの賞をゲットすることができました。しかも近藤優一様は 2 連覇でした。ほんとすごいです。

写真 3

写真 4

写真 5

画論本選に参加し感じたことは、日頃から要請される検査やその症例に真摯に向き合い、常に最適な撮影方法、画像処理方法、提出方法を考察していなければならないということである。そうでなければ、つねに臨床的価値の高い検査を提供することができない。また自分達の撮影技術、画像作成が高評価として認められた時はうれしいものだなぁと気がつきました。

今年も予定通り画論 27th は行うようです。もし、興味があれば登録、チャレンジしてみましょう。5 月か 6 月にエントリーが始まります。もちろん、私もするつもりです。長文に付き合っていただきありがとうございました。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。